

小さな文字ちゃんと見えていますか？

「目の衰え」を感じ始めたら「杞菊地黄丸」

「目の衰え」は体からの注意信号

年齢とともに衰えてくる体の機能。その兆候はまず目に表れることが多いといわれています。

- ・目がシヨボシヨボする
- ・目がまぶしくて、チカチカする
- ・目が疲れて乾く
- ・ピントがすっきりと合わない
- ・視界がぼんやりとかすむ
- ・新聞などの小さな文字が読みにくい

・長時間の読書ができなくなったなどの自覚は、目が教えてくれる体からの注意信号なのです。



人は受け入れる情報の多くを視覚に頼っています。そのため、目は起きているあいだ働き続けるため、十分な栄養が必要です。漢方の世界では目の機能は「腎（じん）」と「肝（かん）」に密接な関係があるとされています。「腎」とは現代医学でいう、泌尿・生

殖器系、副腎などの内分泌系の各機能の総称です。「肝」は、血液の貯蔵、血流量の調節、または自律神経に関わる機能の総称です。これらの働きが衰えると目に届く栄養が不足しがちになり、目の機能に影響を及ぼします。

目の症状の特効薬「杞菊地黄丸」

体の衰えや老化からくる疲れ目・かすみ目の改善におすすめしているのが「杞菊地黄丸（こぎくじおうがん）」です。杞菊地黄丸は、山薬（サンヤク）・山茱萸（サンシュユ）・熟地黄（ジユクジオウ）・牡丹皮（ボタンピ）・茯苓（フクリヨウ）・沢瀉（タクシャ）の「腎」を補う機能を持つ六種類の生薬からなる「六味地黄丸（ろくみじおうがん）」に枸杞子（クコシ）と菊花（キクカ）を加えた漢方です。



枸杞子（クコシ）



菊花（キクカ）

枸杞子とはクコの実のことで、昔から枸杞茶や枸杞酒などで親しまれ、よく知られています。目の疲れをとり視力を増すと同時に腰や膝のだるさもとってくれます。菊花は肝臓に働きかけ、肝の高ぶ

りを抑え、目をスッキリさせる作用があるので、のぼせや頭痛、疲れ目、目の充血をとるのに用いられています。この両者は腎が親で肝が子に例えられる密接な関係にあります。年齢的にいって腎が衰え始める中年以降は、肝を養うためには腎を補うという意味で枸杞と菊花を合わせた杞菊地黄丸を飲んで視力が上がってきた、目が疲れなくなった、視界が明るくなったという例は枚挙にいとまがありません。

漢方療法推進会

「杞菊地黄丸」（第二類医薬品）

七二〇丸（一か月分）

七、〇〇〇円＋税

成人（十五歳以上）の方は一日三回、一回八丸を水または白湯で服用してください。

十五歳未満は服用できません。



「杞菊地黄丸」についてののご相談ご質問は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「こころがワクワクするとからだも元気に」

やる気がおこらない、イライラしやすい、心配事ばかりで不安、うつ、眠れない方ケアバランスでこころを安定させ健康な毎日を送りましょう

ゆがの薬局

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150
当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>



1ヶ月分 8200円（税込）